

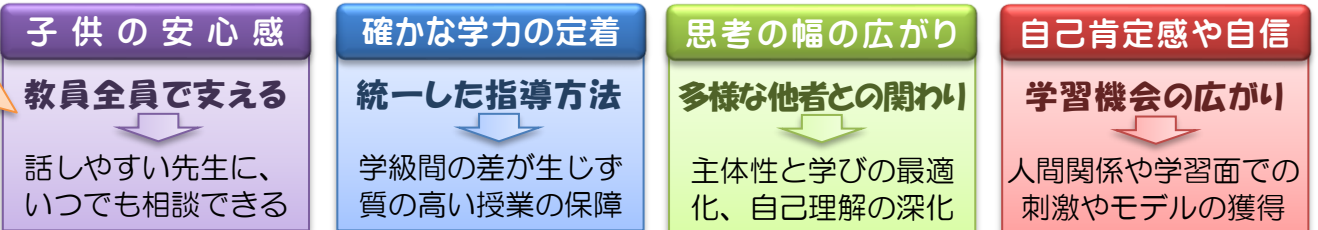
3 今年度の重点施策 未来の守護者を育てる「垣根のない学校」をめざして

「学年担任制」から「協働担任制」へ進化

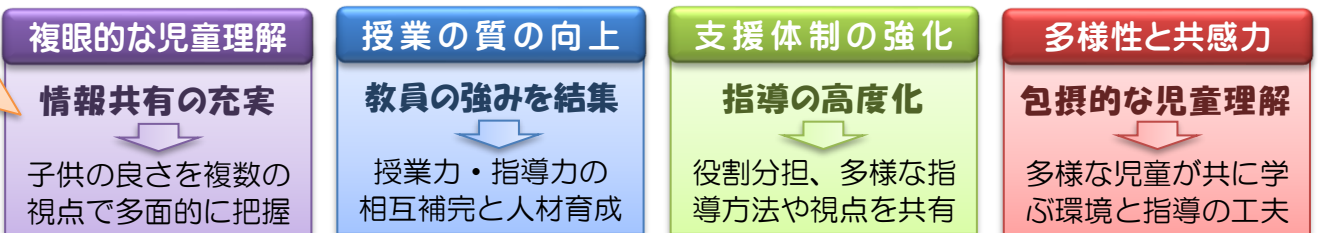
ねらい

“協働”とは、「複数の教員が互いの強みを生かしながら、子供の最善の利益のために力を合わせる」ことです。単なる分業ではなく、教員相互の視点を尊重し、情報を共有し、補い合いながら、一人ではできない成果を生み出すという、チームとして子供を育てる「垣根のない学校」という一本の軸で統合する『より深い関係性を含んだ学校体制の構築』です。

子供にとって



教員にとって



協働担任制の構造



協働を支える基盤

信頼（任せる・頼る）	互いの強みや専門性を尊重し、「任せる」「頼る」ことを肯定的に捉える
共有（目的・価値観）	「連絡」「相談」「記録」の質を高め、「情報」「目的」「価値観」をそろえる
対話（違いを尊重）	違いを尊重し、建設的に意見を交わす、子供の姿を中心に据えた話し合い

論点整理

- 教員の負担増と温度差 ⇒ 打ち合わせや情報共有の時間の確保、全員の納得感の積み上げ
- 責任の所在のぶれ ⇒ 学級・教科主担当の明確化とともに、学年チーム支援の形成
- 児童の安心感の低下 ⇒ 学級主担当を基盤とし、緩やかな学年・教科担任制等の実施
- 情報共有の質のばらつき ⇒ 共有フォーマット等、短時間で回せる情報共有の仕組み作り
- 制度の形骸化 ⇒ ○○ありきではなく、振り返りを重視したDCAPステップ
- 時間割と人的配置の制約 ⇒ 理念だけを先行させず、現実的で持続可能な制度設計の構築